令和２年１月１０日

マルキンだより

畜産PR大使「おーいたん」

公益社団法人　大分県畜産協会　　TEL：097-545-6594
FAX：097-554-4049

第106号

トピックス

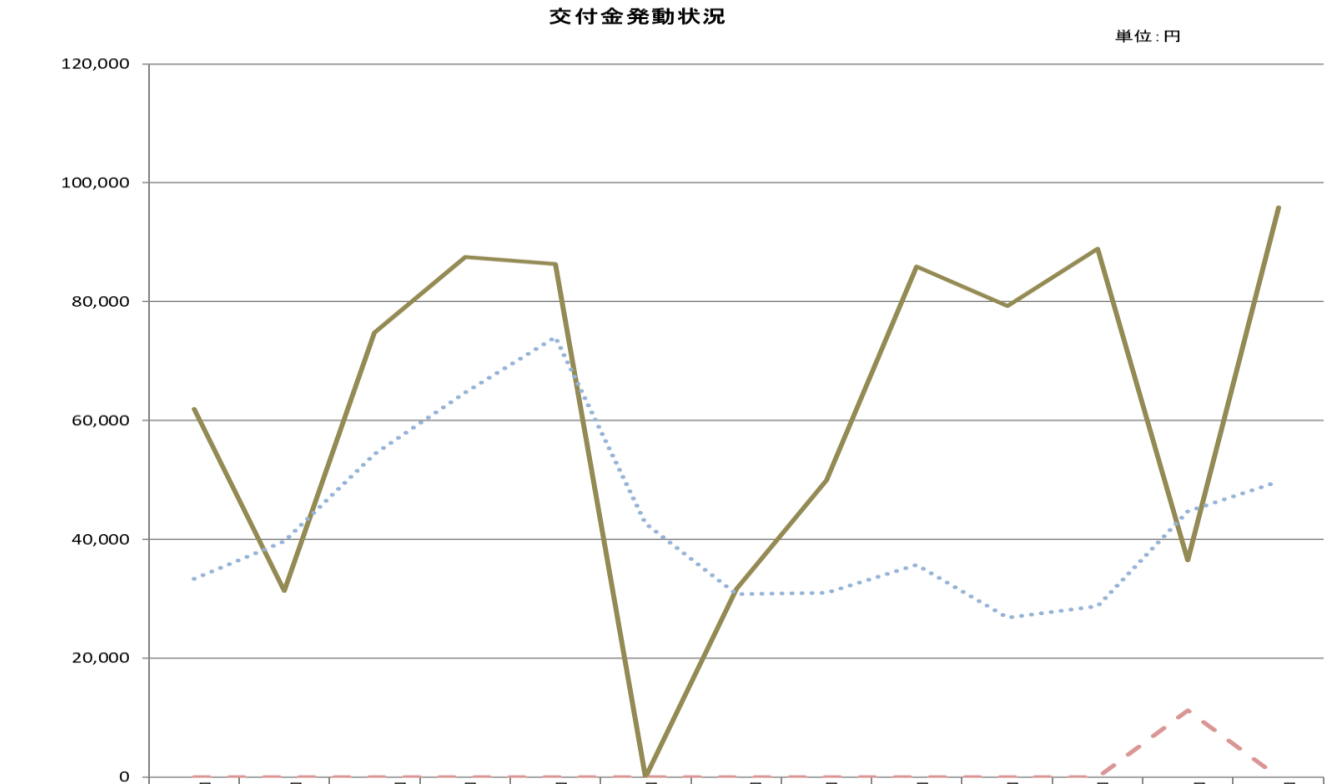
- 令和元年11月分の単価（概算）が公表されました。
- 11月分の交付金交付は、1月29日（水）を予定しております。

令和元年11月分交付金概算払単価公表

肉用牛肥育経営安定交付金制度の令和元年11月分の交付金概算払単価が公表されましたので、概算払いを行います。

肉専用種については、95,874.8円・乳用種については、49,726.4円の交付となります。　交雑種については交付がありませんでした。

詳細につきましては、肉用牛肥育経営安定交付金制度の交付金単価について【令和元年11月分】（独立行政法人農畜産業振興機構発行）」をご覧ください。



	11月	12月	H31.1月	2月	3月	4月	R1.5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
肉専用種	62,000	31,400	74,840.4	87,491.7	86,398.2	0.0	31,698.0	50,013.0	85,923.9	79,301.7	88,938.9	36,478.4	95,874.8
交雑種	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	11,271.2	0.0
乳用種	33,400	39,700	54,378.9	64,769.4	74,024.1	42,722.1	30,806.1	31,029.3	35,702.1	26,905.5	28,826.1	44,722.4	49,726.4

牛マルキン事業に関係するホームページ

★公益社団法人　大分県畜産協会　http://ooita.lin.gr.jp/

当協会のホームページです。マルキン情報の他、市場結果、種雄牛情報等も掲載しております。

★独立行政法人　農畜産業振興機構　https://www.alic.go.jp/operation/livestock/assistance-marukin_00002.html

補填金単価の公表の他、単価算定に関する各種参考資料等が掲載されております。

★畜産物の市況展望【牛肉】
～在庫過剰で和牛苦戦、交雑牛も下振れか～

11 月の枝肉価格は、和牛は去勢 A5 が前月比 103 円高の 2,793 円（前年同月比 144 円安）、同 A4 も 63 円高の 2,443 円（同 210 円安）と戻した。一方、同 A3 は 5 円安の 2,175 円（同 286 円安）、同 A2 は 13 円安の 1,919 円（同 278 円安）と前月よりもさらに下げ、前年実績を 300 円近く下回った。例年であれば 11 月は 12 月商戦に向けた量販筋の引き合いが良化し、2，3 等級からジリ高に向かうが、今年はさらに下げ進む展開となり、量販店の苦戦がうかがえる。

交雑牛は B4 で 35 円高の 1,763 円（同 32 円安）、B3 が 32 円高の 1,635 円（同 39 円安）、同 B2 は 15 円高の 1,490 円（同 51 円安）。和牛からの需要移行で安定した推移を続けた。同様に、乳去勢 B2 は 42 円安の 950 円（88 円安）と特売需要が輸入牛肉にシフトしていることや、ロイン系の引き合いも弱く下げた。

12 月は外食市場で増税の影響が顕在化した。社用や接待向けのホテル、レストランは比較的堅調さを保っているが、大衆店ほど伸び悩んだという。また量販店では和牛から交雑牛へと移行が進んでいるが、「交雑牛もそれほど売れているとはいえない状況」。扱い店舗が増えているため手当てが入り相場は堅調だが、実際には輸入牛肉が主力になりつつあり苦戦した。

景況感が悪化する中、年明けも好材料は少ないとみられる。補充手当てが一時的には動いても在庫は重く軟調。休み明けに消費者の財布の紐は固く、交雑牛も下振れか。和牛去勢 A5 で 2,700～2,800 円、A4 で 2,400 円前後、A3 で 2,000～2,150 円、交雑種去勢 B3 で 1,550～1,600 円。

（※公益社団法人中央畜産会　発行　畜産コンサルタント誌１月号　抜粋）

★経営診断が「きっかけ」で儲かる肉用牛肥育経営の実践
～素牛選定から枝肉出荷まで、全ては肥育成績の詳細分析から始まる～
【令和元年度全国優良畜産経営管理技術発表会　農林水産大臣賞　受賞発表内容
受賞者：宮崎陽輔・舞　（肉用牛肥育経営・佐賀県唐津市）】

〔経営診断をきっかけに経営改善への取り組み〕

平成 12 年に本人が就農し、肥育技術や経営管理など、何事も一から勉強することとしてきた。

平成 22 年に経営移譲を受けたが、肥育牛の規模拡大や肥育成績が芳しくなかったため、翌年 JA の勧めにより佐賀県畜産協会の経営診断を受診した。

経営診断により、「経営内容を数字で見て衝撃を受け、意識を変えざるを得なかった」とのことである。経営を数字で把握することの大切さを実感し、内容の至る所に所得のロスにつながっているところが散見され、経営管理がうまくいっていないと痛感した。

そこで、１日増加額をアップするために、死亡事故頭数を減らすことと肥育成績（特に増体量と枝肉重量のバラツキ）の改善に取り組むことを決意した。

（※公益社団法人中央畜産会　発行　畜産コンサルタント誌１月号　抜粋）

大分県畜産協会では、佐賀県畜産協会同様に畜産経営コンサルタントを行っています。気になる方は、一度大分県畜産協会にお問い合わせしてください。続きは別紙に載せていますのでご参考ください。

経営診断が「きっかけ」で儲かる肉用牛肥育経営の実践

―素牛選定から枝肉出荷まで、全ては肥育成績の詳細分析から始まる―

農林水産大臣賞／宮崎　陽輔・舞（肉用牛肥育経営・佐賀県唐津市）

地域の概況

宮崎牧場は、県の西北部、佐賀県唐津市鎮西町に位置している。当地域は唐津市と玄海町にまたがる「上場（うわば）地域」と呼ばれ、標高100～200mの波状卓上台地である。対馬海流の影響を受けて冬季は比較的温暖で、平均気温は16℃前後で、降水量は年間約1800mm程度である。

畜産は、肉用牛の生産が盛んで、繁殖牛、肥育牛ともに県内の約半分の生産地帯となっている。肥育農家については、唐津市と玄海町で40戸、30年度の肥育牛販売頭数8999頭、販売額99億9000万円となっており、佐賀県の農畜産物のトップブランドである「佐賀牛」生産の拠点となっている。管内には、肥育素牛の安定供給のためJAのキャトルステーションが整備されており、良質な子牛生産に取り組んでいる。

（写真１）宮崎さんご家族

（表１）経営・活動の推移

年次	飼養頭数	飼料作付面積	経営・活動の内容
昭和45	肥育牛１頭		・ミカン経営（徐々に縮小） ・ホルスヌレ子１頭から肥育牛飼養開始
平成12	黒毛300頭		・後継者として就農（20歳） ・家族経営協定の締結
15～16年	黒毛600頭		・牛舎増築 ・素牛導入先を宮崎県から鹿児島県に変更
19年	黒毛750頭		・牛肉の輸出開始（香港）
22年	黒毛750頭		・経営移譲
23年	黒毛750頭		・経営診断を受診 ・新しい配合飼料試験を開始 ・稲WCSを開始 ・宮崎牧場で小学生の食育活動を開始
25年	黒毛710頭		・青年部会研修会に、経営分析を取り込む
30年	黒毛710頭	牧草 520 a 稲WCS 1,600 a 稲わら収集 6,000 a	・佐賀牛の販売促進活動としてタイで佐賀牛指定店認証式に参加（JAからつ肥育牛部会） ・青年部の部会長に就任
令和元年	黒毛720頭		・株式会社　佐賀牛宮崎牧場を設立（８月）

経営・技術の特色

【経営診断をきっかけに経営改善への取り組み】

平成12年に本人が就農し、肥育技術や経営管理など、何事も一から勉強することとしてきた。

平成22年に経営移譲を受けたが、肥育牛の規模拡大や肥育成績が芳しくなかったため、翌年JAの勧めにより佐賀県畜産協会の経営診断を受診した。

経営診断により、「経営内容を数字で見て衝撃を受け、意識を変えざるを得なかった」

とのことである。経営を数字で把握することの大切さを実感し、内容の至る所に所得のロスにつながっているところが散見され、経営管理がうまくいっていないと痛感した。

そこで、１日増加額をアップするために、死亡事故頭数を減らすことと肥育成績（特に増体量と枝肉重量のバラツキ）の改善に取り組むことを決意した。

【飼養管理に合った肥育素牛の導入】

肥育素牛の選定については、自ら肥育成績のデータ分析に取り組み、飼養管理に最も適した肥育素牛の産地や血統、発育状態を集計分析し、その結果をもとに導入することとした。

同時に、素牛の目利き上達のため、導入した素牛ごとに「出荷時の肥育牛」の外見、体型、肉質などをイメージすることで、どの程度の肥育成績になるかを想定し、出荷時の肥育成績と比較検討した。

素牛の導入先については、自分の飼養管理に合い価格面も有利である鹿児島県の離島を開拓した。

【従業員が一体で肥育成績の向上への取り組み】

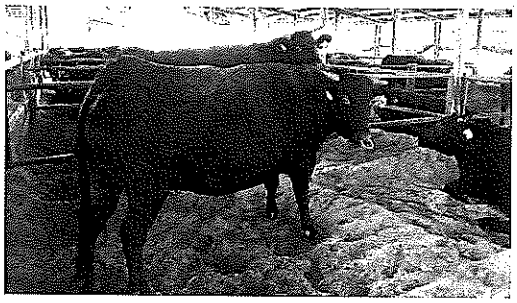
死亡事故対策として、毎晩、深夜１時に牛舎を巡回し、肥育牛に異常がないかチェックしている。

肥育成績の向上にあたっては、従業員との定期的な試食会の開催や、枝肉共励会等での入賞牛の牛肉の確認など、日頃の作業は何のために行っているかの理解に努めた。毎日10時と３時の休憩時間を「お茶の時間」とし、従業員全員で団欒する場を設けて、飼料給与量の調整、飼養管理の進捗状況や肥育牛の状態、前日の出荷牛の枝肉成績などについて情報共有を図っている。

これらの取り組みにより、異常牛の早期発見、早期治療を実践でき、肥育牛の死亡事故

（表２）経営実績

経営の概要	労働時間（畜産）	家族・構成員		6,495 時間
		雇用・従業員		12,240 時間
	＜労働従事人数（家族・構成員）＞			4 人
	＜労働日数/１人（家族・構成員）＞			217 日
	労働力員数（畜産・2000hr換算）		家族・構成員	3.2 人
			雇用・従業員	6.1 人
	肥育牛平均飼養頭数	肉用種		720.4 頭
		交雑種		頭
		乳用種		頭
	年間肥育牛販売頭数	肉用種		422 頭
		交雑種		0 頭
		乳用種		0 頭
所得率				7.2 %
生産性	肥育（品種・肥育タイプ）（黒毛和種種雌若齢）	肥育開始時	日齢	266 日
			体重	243.5 kg
		販売肥育牛１頭当たり	出荷日齢	876 日
			出荷時生体重	709.8 kg
		平均肥育日数		610 日
		販売肥育牛１頭１日当たり増体重（DG）		0.77 kg
		対常時頭数事故率		1.2 %
		販売肥育牛１頭当たり販売価格		1,250,854 円
		販売肥育牛生体１kg当たり販売価格		1,762 円
		枝肉１kg当たり販売価格		2,650 円
		肉質等級４以上格付率 ※		83.0 %
		素牛１頭当たり導入価格		732,524 円



（写真２）肥育舎 清潔な敷料で牛へのストレス軽減

頭数が平成22年に22頭（事故率3.1％）だったものが、平成30年は９頭（同1.1％）に減少した。

素牛は日齢が若く、日齢体重は平均以下が多いが、導入時に想定した肥育イメージより良くなることが多くなった。現在、肥育イメージの適合率は、70％が予想どおり、20％が予想以上とのことである。

【肥育牛部会が一体で増体への取り組み】

平成18年以降の配合飼料価格や輸入粗飼料価格の高騰、高止まりの対応として、JAからつ肥育牛部会では、独自の配合飼料を作り上げることとした。

部会員である肥育農家が自ら飼料給与試験

を行い、平成23年から開始し定期的に血液検査の実施と肥育成績の分析を行い、その結果により飼料給与量などが適正かどうかを検討し、飼料給与体系に反映させることで、地域独自の配合飼料と飼料給与体系を確立した。当経営も肥育牛部会の役員として参加し、部会員の意見調整に努めた。

平成23年に、青年部は共通の勉強テーマとして、年２回、青年部会員の牛舎環境や肥育牛の状態を観察する現地巡回を実施するようになった。平成25年からは、現地巡回をしながら畜産協会で分析した部会員個々の肥育成績を全員で検討することとし、それぞれの農家の飼養管理の工夫など情報交換を行い、切磋琢磨することとなった。

現在、青年部の肥育成績は、主体となる黒メスの若齢肥育では、枝肉重量455.6kgと県平均を12kgほど上回っている。死亡事故率は１％と基準の範囲内となっている。

【肥育成績を向上させた取組みや工夫】

肥育素牛は導入時にワクチン接種、駆虫剤投与、ビタミンＡ補給を実施している。次に、肥育前期は１群４～８頭に群分けを行い、粗飼料を１日に３～４回に小分けして給与するとともに、飼槽にはスタンチョンまたは仕切り棒で区分することで飼料摂取量の差を減らし、個体の強弱による発育のバラツキを最小限にとどめている。

（写真３）青年部での現地巡回オープンに意見交換

導入して７ヵ月目に、肥育牛の相性を見て１群２～３頭を仕上げ舎に移動し、ストレスの低減を図っている。仕上げ舎は、肥育牛１頭当たりの牛床面積８㎡を確保している。

【コスト削減への取り組み】

平成23年からは、稲わらの収集や、牧草ラップの調達、稲WCSの増産により、天候の条件によっては、ヘイキューブのみを購入し、乾草の購入をゼロにすることができるようになった。敷料にはオガクズを50％、地元のライスセンターから無料で調達するモミガラを30％、完全発酵させたリサイクル堆肥を20％混合して利用するといった工夫をしている。素畜費の低減を加えると、推定で出荷牛１頭当たり12万円以上のコストを削減できている。

【関連会社を通し枝肉成果をフィードバック】

極力、枝肉セリに立会し、購買者から高い評価を受ける意見を飼養管理にフィードバックしている。

また、父が設立した「有限会社　愛郷ファーム」で、毎月、当経営から出荷した２頭以上のロース芯などの面積、脂肪交雑、肉付きや肉色、きめ・しまりなどの肉質、モモの部分の脂肪交雑（モモ抜け）などを確認し、枝肉に異常がないか、飼養管理が適正だったかなどを確認できる体制を構築している。このため、購買者にはBMSナンバー以上の評価を受けている。

【牛肉輸出で魅力のある肥育経営】

平成19年から年間25頭以上を輸出用に出荷しており、さらに増加させたいと考えている。

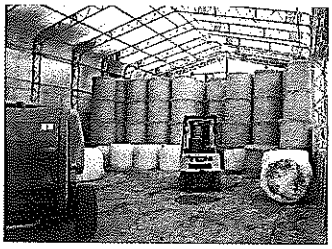
また、佐賀県農林水産物等輸出促進協議会活動の一環として、香港やタイ、マレーシア、台湾など東南アジア諸国への現地視察、販売促進活動にも積極的に参加し、海外のニーズも満たせるような肥育牛生産を目指している。平成30年度は、タイで佐賀牛指定店認証式に肥育牛部会員で参加し、海外の消費者や購買者と交流を持ち、魅力ある肥育経営を目

指している。

将来的には、全国の若い肥育農家が集まって、海外で和牛の販売促進をしたいと考えている。

耕畜連携の活動

稲わら収集、稲WCS生産、牧草（ラップ）の生産面積を増やすことで、耕作放棄地対策に尽力している。生産に当たっては、自給飼料専用パートを雇用し自家産の堆肥を供給し連携に努めている。佐賀平野でも稲わら収集や稲WCSを調達し、地域資源を有効に活用している。今後は、稲WCSを肥育後期にも給与する計画である。



（写真４）佐賀平野の稲わら十分な広さの保管設備

地域に対する貢献

【「㈲愛郷ファーム」で佐賀牛を地元で提供】

直売所やレストランには、昼夜を問わず、観光客や地元のお客さんが訪れるとともに、ランチタイムには近くの肥育農家や耕種農家が休憩と交流に役立っている。一番人気は「佐賀牛定食」である。

また、旧鎮西町の産業祭には、宮崎牧場の従業員総出で産業祭を盛り上げている。

【小学生を対象とした食育活動】

宮崎牧場では、平成23年から毎年、地元の打上小学校の低学年（１～２年生）を牧場に招いて、食育活動を実施している。

【８月に法人化】

家族労働者４名と常雇２名、パート７名を雇用し、地域に雇用の場を提供している。

雇用条件は、家族（父は除く）と常雇が週６日勤務、飼養管理パートが平均すると週３日勤務となっている。妻は会計や庶務を担当している。従業員を確保しやすい状況を目指して、８月に「株式会社　佐賀牛宮崎牧場」を設立した。

生活の視点の配慮について

【従業員のやりがい、健康を考えた雇用方針】

従業員の業務に応えるために、法人化をきっかけに休日の増加や保険制度への加入などの福利厚生の充実や牧場の知名度をアップすることでやりがいを持ってほしいと考えており、これから就業規則や給与規程等の基本的な規則を定め、時間差出勤など他の事項についても準備整備していく予定である。

【肥育牛管理への女性進出と経営管理】

飼養管理パート５名と家族（母、妻）２名の女性が、積極的に牧場の経営に携わっている。

妻は、税理士に習いながら会計や庶務を進めており、今後の株式会社化では、妻の業務が重要となってくる。

将来の方向性について

牧場の知名度アップ、福利厚生の充実を行い、地元の若者に自慢できる働く場を目指している。

また、法人化することにより、信用力が高まり資金融通を円滑にすることで、株式会社佐賀牛宮崎牧場の経営基盤を強化したい。

将来は、肥育牛を1000頭、2000頭と増頭するとともに、国内外の消費者と交流を行い、佐賀牛ブランドの向上にも努めていきたいと考えている。